



町 平成 29 年度 政執行方針

子どもたちが夢・希望を描くことができるまち

平成 29 年第 1 回栗山町議会定例会で榎原紀昭町長が町政執行方針を示しました。

町政 3 期目の締めくくりに迎える、先人が築いた「ふるさと栗山」の未来を展望し、「思いやりの心がかよう、元気のでるまちづくりを！」の実現に向け、町政執行に臨む決意を述べました。

夕かけて 野辺の畦道 たどりつつ 黄金みづほのいろをみるかな

明治 21 年 5 月、開祖の泉麟太郎翁が新天地に入植して 15 年。大自然や阿野呂原野と壮大な戦いで光明が見えた明治 35 年に詠んだ詩歌であります。

愛する大地の夕暮れに照り輝く稲穂が、これまでの艱難辛苦の日々をねぎらふ、営農によって栄えるふるさとでの発展を心から願っていたに違いありません。

さて、この入植・開拓から、まもなく 130 年を迎え、私も町政 3 期目の締めくくりに迎えます。先人が築いた「ふるさと栗山」の未来を展望し、私の描く「思いやりの心がかよう、元気のでるまちづくりを！」の実現に向け、一層の決意と情熱をもって全力でまい進いたします。

国政においては、長いデフレからの脱却と経済再生を図る施策を強力に推進し、活力ある地域社会の実

現を目指す地方創生の取組や、一億総活躍社会の実現に向けて進んでおります。

しかし、日本は今、これまで誰も経験したことのない人口減少社会に直面しております。特に地方は、人口急減・超高齢化という大きな課題に挑戦する対策に奔走しながらも、地域の暮らしや経済の進展は未だ実感できておりません。

本町においては、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を進めており、「結実の期間」と位置付けた大切な年でもあります。夢と希望あふれる未来へ向け大きな「飛翔」の時として、町民の皆さんと自律的で持続的なふるさと栗山の創生に挑戦します。

新年度の町政執行に当たり、「5 つの基本目標」を掲げ、将来にわたる成長力の確保のため、さまざまな施策を有機的に結び付けた総合的取組を展開してまいります。

コミュニティ活動などへの支援、地域おこし協力隊との事業展開、SNS(ソーシャル・ネットワーク)を積極的に活用した地域の情報共有などに取組みます。

次世代へ「子育てと希望」の光が彩るふるさとづくりの推進

私たちには、先人が築き上げたこのまちを、子どもたち、若者たちにつなぐ大きな責任があります。次世代の担い手である子どもたちが伸び伸びと成長する子育て・教育環境、また、若者たちにとって結婚・妊娠・出産・子育ての切れ目のない魅力的な地域環境を創り上げることが必要であります。

その重点施策として、子育てに不安や孤立感を抱える養育者などを支援する「第 1 期栗山町子ども・子育て支援事業計画」に基づく子育て環境の充実、キャリア教育の推進、若者・子育て世代の移住者への住宅支援など真摯に取り組みます。

栗山の子どもたちや若者たちが住み続けたいくなる、次世代へ「子育てと希望」の光が彩るふるさとづくりを進めてまいります。

2 誰もが「笑顔と健康」で明るく暮らすふるさとづくりの推進

長寿社会に生きる私たちには、日々健康で持てる力を最大限に発揮しながら、自律し生きがいをもって自分らしく生きることが求められます。

多世代が交流、協力して地域ぐるみで支え合いを深め、心身の健康を保持し、生活の質を向上していくことが必要であります。

その重点施策として、「第 1 期栗山町健康増進計画」に基づく生活習慣の改善、「第 7 期栗山町高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」の策定、町民参加による将来の医療環境整備の検討などに取り組みます。

すべてのライフステージに応じて、誰もが「笑顔と健康」で明るく暮らすふるさとづくりを進めてまいります。

3 地域の「魅力と活力」を創造し続けるふるさとづくりの推進

本町は、農業の発達にはじまり、交通網の整備による商工業の発展など、長い歳月をかけて経済的に繁栄してまいりました。

これまで培われた歴史や伝統ある祭典など、近年の魅力ある栗山の潜在力を生かし、新しい未来の発展を創造することが必要であります。

その重点施策として、「第 4 期栗山農業ルネッサンス」に基づく農業振興策の推進、新たな第 4 工業団地を含めた戦略的企業誘致活動の展開、「栗山都市計画マスタープラン」に基づく各地域振興策の推進などに取り組めます。

これまでの積み重ねを基調とし、地域の「魅力と活力」を創造し続けるふるさとづくりを進めてまいります。

4 自然との「共生と調和」により多文化と歩むふるさとづくりの推進

生は、多世代交流の町民生活や教育体験活動など、私たちに多大な恩恵と夢とやさしさを育んでくれます。

栗山の自然環境を保全し、かつ積極的に活用することが必要であります。

その重点施策として、ふるさと体験教育の推進、自然や環境と調和したモデル河川整備の推進、太陽光など身近な新エネルギーの活用などに取り組めます。

ふるさと栗山の価値を再発見し磨き高め、自然との「共生と調和」により多文化と歩むふるさとづくりを進めてまいります。

5 町民との「連帯と協働」によるふるさとづくりの推進

いつの時代も、未来を担う人づくりこそが、まちづくりの根幹であります。

町民一人ひとりが、必要な情報を共有し住み良い地域社会づくりに連帯の輪を広げ、思いやり支え合うことが必要であります。

その重点施策として、コ

以下、本年度の主要施策の概要を、「栗山町第 6 次総合計画」におけるまちづくりの基本目標に沿って申し上げます。



地域おこし協力隊の委嘱状交付式

安心して暮らせるふるさとづくり

かけがえのない財産を次世代へつなぐ循環型社会を構築するため、ごみの再資源化を推進するとともに、将来的に安定したごみ処理体制を確立してまいります。

また、太陽光など身近な新エネルギーの活用を図り、地球温暖化対策に向けた取組を推進してまいります。

最終処分場の延命化を図るため、排出ごみの再資源化や減量化の普及・啓発を推進してまいります。

また、平成 36 年 4 月稼働予定の広域焼却処理に向けた、効率的な収集・運搬体制などの検討を進めてまいります。

◎今年の特長
▽ごみ分別の徹底、再資源化を推進します。
▽最終処分場への埋立量を減容します。

◇環境・エネルギー

啓発用ハイブリッド発電装置の設置や、太陽光発電などの設置助成を継続し、環境にやさしい取組を進めてまいります。

また、温室効果ガスの排出抑制などを行うため、「栗山町地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」の策定に向け、引き続き調査を進めてまいります。

◎今年の約束

▽再生可能エネルギーを導入する町内事業者を支援します。

▽住宅用太陽光発電システムの設置費用を助成します。

▽太陽光・風力ハイブリッド発電装置を設置します。

◇防災

さまざまな自然災害から町民の生命・財産を守るため、「栗山町地域防災計画」に基づき、関係機関・団体との連携による防災訓練などを実施し、防災力の一層の強化を図ってまいります。

また、災害時における初動体制を確立するため、防災情報の伝達手段の構築を図るとともに、避難施設などの停電対策を充実してまいります。

◎今年の約束

▽農村環境改善センターに非常用電源を設置します。

▽小中学校や公共施設に防災情報の伝達機器を設置します。

▽総合防災訓練、冬季合同防災訓練を行います。

◇消防・救急

町民の安全・安心の確保を最優先とし、災害発生時に迅速かつ的確に対応できる体制を維持してまいります。

また、広報活動や火災予防査察を通じて、防火意識の高揚を図るとともに、各事業所や町民を対象とした救急講習会を実施してまいります。

◇生活安全

交通安全施設の整備はもとより、交通安全協会をはじめ関係機関・団体と連携し、飲酒運転の根絶など、町民一人ひとりの交通安全意識の高揚を図ってまいります。

また、防犯協会や暴力追放運動推進協議会をはじめ関係機関・団体と連携し、地域ぐるみによる防犯体制の強化を図ってまいります。

さらに、悪質商法や特殊詐欺被害の未然防止に向け、消費者協会と連携し、相談窓口の充実及び消費者行政のさらなる推進に取り組んでまいります。

◎今年の約束

▽交通安全施設を整備します。

▽南空知4町の広域消費生活相談を行います。



町内でのイエコ一作業

人々が輝くふるさとづくり

ライフスタイルの多様化が進展する中、自ら学び、生活に豊かさや潤いを感じる、ふるさと栗山の教育を推進し、生涯学習社会の実現を目指してまいります。

◇学校教育

新しい時代を見据え、確かな学力を育成する教育環境づくりに取り組むとともに、豊かな心や健やかな身体を育む教育活動を推進してまいります。

また、北海道介護福祉学校につきましては、高等学校とのキャリア教育を進め、介護施設や同窓会などと連携した学生募集対策を推進するとともに、高い資質を備えた介護福祉士の養成を図ってまいります。

◎今年の約束

▽コミュニティ・スクールを実施します。

▽土曜授業を実施します。

▽小中高一貫ふるさとキャリア教育を推進します。

▽栗山高等学校生徒の各種

資格取得を支援します。

◇生涯教育

町民の皆さんが躍動し、豊かな生活を送ることが出来る環境づくりを推進するとともに、関係機関・団体と連携し、生涯に渡る学びの推進に取り組んでまいります。

また、図書館につきましては、学校と図書館の協働により、家族で読書を楽しむ家読事業や学校での読書習慣の促進と環境づくりを進めてまいります。

◎今年の約束

▽家読に取り組みます。

◇自然環境教育

関係機関・団体と連携し、ハサンベツ里山や夕張川など栗山の自然を活かした体験教育を推進してまいります。

また、「国民参加の森林づくり協定」に基づく生態系調査を行うなど、森林における生物多様性の重要性を学ぶ環境教育や保全活動を推進してまいります。

◎今年の約束

▽自然環境教育やふるさと体験プログラムの充実を図ります。

▽滝下地区の生態系を調査します。

◇スポーツ

町民の健康づくりと生涯スポーツの振興を目指し、誰もが気軽に参加できるスポーツ・レクリエーション活動の充実を図ってまいります。

また、競技力の向上やスポーツの普及・振興を図るため、体育協会やスポーツ少年団の活動を引き続き支援するとともに、計画的な施設設備の補修・改修を進めるなど、施設の長寿命化を図ってまいります。

◎今年の約束

▽スポーツセンターの設備を改修します。

▽継立水泳プールの上屋シートを改修します。

◇芸術・文化

文化連盟をはじめ関係団体や芸術家と連携し、町民



くりやま芸術祭

が芸術文化に親しむ環境づくりを進めるとともに、貴重な文化財の保存・保護を推進してまいります。

◎今年の約束

▽開拓記念館特別展示を開催します。

▽栗山町の文化財と広報アノロを発行します。

◇国際・地域間交流

まちの将来を担う子どもたちに国際感覚を養う少年ジェット希望の翼派遣事業を継続実施するとともに、角田市との子ども交歓のつどいなどを通じて、地域間交流を推進してまいります。

◎今年の約束

▽少年ジェット希望の翼派遣事業を行います。

健康に暮らせるふるさとづくり

町民一人ひとりが、生涯にわたって、自分らしく健康で活躍できる地域社会の実現を目指してまいります。

また、結婚や出産、子育ての希望を叶える環境づくりを推進し、子どもたちの笑顔が輝き、「子育てするなら栗山」と実感できるまちづくりを進めてまいります。

◇保健

「第1期栗山町健康増進計画」に基づき、生活習慣病の発症及び重症化予防の徹底を図り、生活習慣の改善活動を推進してまいります。

また、「健康寿命延伸のまちづくり宣言」に基づき、企業や団体などと連携し、町民同士がしっかりと支え合いながら健康を守るまちづくりに取り組んでまいります。

◎今年の約束

▽中学生ピロリ菌検査費用

を助成します。

▽生活習慣病対策を強化します。

▽くりやま健康マイレージ事業を充実します。

◇地域医療

地域医療協議会をはじめ関係機関・団体と連携し、町民が安心して医療を受けられる、持続可能な提供体制を構築するため、町民参加による検討を引き続き進めてまいります。

また、南空知の基幹病院である栗山赤十字病院への支援を引き続き行ってまいります。

◎今年の約束

▽医療環境整備を検討する町民委員会を開催します。

▽栗山赤十字病院に支援します。

◇児童福祉

「第1期栗山町子ども・子育て支援事業計画」に基づき、子ども・子育て支援の質・量の充実を図り、安心して子どもを産み育てら



子どもフェスティバル

れる環境づくりを推進してまいります。また、「栗山町子ども健やか育み宣言」に基づき、子育て支援の意識醸成を図るとともに、子どもや子育て家庭を地域社会全体で温かく見守るまちづくりを進めてまいります。

◎今年の約束

▽子ども健やか育み宣言記念事業を行います。

▽くりやまライフサポート事業を行います。

▽ファミリーサポートセンター事業の利用を促進します。

▽子育て支援センターの利用を促進します。

◆高齢者福祉

「第7期栗山町高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」を策定し、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を目指してまいります。

また、地域包括支援センターが中心となり、関係機関・団体と連携し、介護予防・日常生活支援総合事業を実施してまいります。

◎今年の約束

▽第7期栗山町高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画を策定します。
▽介護予防・日常生活支援総合事業を行います。

◆地域福祉

民生委員児童委員や社会福祉協議会をはじめ関係機関・団体と連携し、高齢者や障がい者などの積極的社会参加を図るとともに、見守り、支え合う地域社会づくりを進めてまいります。

◎今年の約束

▽まちなかカフェの利用を促進します。

◆障がい者福祉

「第5次栗山町障がい者福祉計画・障がい福祉計画」を策定し、障がい者の自立と社会参加を促進する総合的なサービスの充実を図ってまいります。

◎今年の約束

▽第5次栗山町障がい者福祉計画・障がい福祉計画を策定します。
▽軽度・中等度難聴児補聴器等購入費用を助成します。

◆賑わいと活力あるふるさとづくり

本町最大の強みである基幹産業の農業と各産業が連動し、潜在力が最大限に発揮される環境づくりを推進してまいります。

また、時代の潮流を捉えた戦略的な観光事業を推進するとともに、多様な世代が活躍できる雇用環境の充実を図ってまいります。

◆農林業

栗山町農業振興計画「第4期栗山農業ルネッサン

ス」に基づき、良質で安全・安心な農畜産物の生産と、効率的で安定した農業経営を確立するため、関係機関・団体や農業振興公社と連携し、持続可能な農業・農村づくりを進めてまいります。

また、森林の保全と林業の振興を図るため、「栗山町森林整備計画」に基づき、南空知森林組合をはじめ関係機関・団体と連携し、計画的な森林整備を進めてまいります。

◎今年の約束

▽後継者や新規就農者など農業の担い手を育成します。
▽新農業技術を活用し、生産性向上に向け検討します。
▽町独自の農地中間保有制度を創設します。
▽農業基盤整備事業を行います。
▽6次産業化の取組を強化します。
▽計画的な町有林管理と民有林の整備を支援します。

◆商工業

集客向上につながる商店街の主體的な取組を支援するなど、商工会議所と連携し、魅力ある街づくりを推進してまいります。

また、交通の利便性が高い機能的立地条件を活かし、新たな第4工業団地を含めた戦略的企業誘致活動を展開するとともに、町内商工業者の経営安定支援を継続し、雇用創出など、地域経済の底上げを図ってまいります。

◎今年の約束

▽まちの駅栗夢プラザの運営を支援します。
▽第4工業団地を含めた戦略的企業誘致活動を展開します。

◆観光・交流産業

潜在的な観光資源を調査し、関係機関・団体と連携した新たな観光推進体制の構築を図ってまいります。

また、栗のブランド化を推進するとともに、東アジア市場における特産品の販路開拓の支援や、海外から

の観光客誘致を進めるなど、本町への新たな人の流れをつくってまいります。

さらに、移住促進事業を継続するとともに、戦略プランに基づくプロモーション活動を展開してまいります。

◎今年の約束

▽新たな観光推進体制を構築します。
▽栗のブランド化を推進します。
▽若者・子育て世代の移住を促進します。
▽くりやま若者シティプロモーション事業を展開します。



まちづくりトーク&ディスカッション

◆雇用環境

雇用側の担い手確保、就業希望者への適切な情報提供を行うとともに、ハローワークをはじめ関係機関・団体と連携し、就業を支援してまいります。

また、南空知通年雇用促進協議会による季節労働者の通年雇用化を図ってまいります。

◎今年の約束

▽南空知3町合同の職業相談会を開催します。
▽季節労働者の資格取得を支援します。

◆快適でやさしくふるさとづくり

地域生活サービスの持続的、効果的提供など、ストック効果を最大化する社会資本整備の推進により、町民生活の質の維持・向上や地域の活性化を図ってまいります。

◆道路・交通

点検・計画・修繕・更新といったメンテナンスサイクルを実践するとともに、

安全・安心で快適な住生活を実感できる道路環境及び除雪体制の充実を図ってまいります。

また、国・道が管理する道路の整備について、引き続き関係機関へ強く要請してまいります。

さらに、高齢者などの移動手段をはじめ活力ある地域経済や町民の暮らしを支える公共交通の確保を図ってまいります。

◎今年の約束

▽湯地継立線の道路改良を行います。
▽南大通り・中央通りなどの歩道を改修します。
▽鳩山橋を補修します。
▽第4工業団地内の町道を整備します。
▽コミュニティバスを運行します。
▽歩道用ロータリー除雪車を更新します。

◆住宅・住環境

「栗山町住生活基本計画」及び「栗山町公営住宅等長寿命化計画」に基づき、計画的な公営住宅の建て替え



建て替えられた曙団地

を進めるとともに、バリアフリー改修等支援制度の継続及び空き家対策の推進など、誰もが安心して暮らせる住宅セーフティネットの構築を目指してまいります。

また、若者・子育て世代の移住者への住宅支援を継続してまいります。

◎今年の約束

▽曙団地の建て替えを進めます。
▽若者・子育て世代の移住者への住宅支援を行います。
▽危険な特定空家等の対策に取り組みます。
▽人にやさしい住宅助成事業を行います。
▽継立団地の浴室を防水改修します。

◆上・下水道

「栗山町水道ビジョン」に基づき、水源保全・水質管理の徹底による安全性の確保を図るとともに、アセットマネジメント（資産管理）による計画的な水道施設の更新及び経営の健全化に努めてまいります。

また、「栗山町下水道長寿命化計画」に基づき、下水道施設の適正な維持管理による経営の安定化を図ってまいります。

さらに、本年4月より町管理に移行する合併処理浄化槽事業（個別排水処理事業）により、生活排水の処理環境のさらなる改善を図ってまいります。

◎今年の約束

▽老朽水道管及び桜山浄水場機器を更新します。
▽第4工業団地に水道及び下水道管を敷設します。
▽下水道管理センター機器を更新します。
▽町管理による合併処理浄化槽事業を開始します。

◆河川

倒木除去や樹木伐採など、近年多発する災害リスクに対応した適正な維持管理に取り組みとともに、国・道が管理する河川の治水対策や落差工改修について、引き続き関係機関に要請してまいります。

また、ハサンベツ地区における自然河川づくりなど、環境と調和したモデル河川整備を促進してまいります。

◎今年の約束

▽多良津川を浚渫します。

◆街なみ・景観

「栗山都市計画マスタープラン」に基づき、賑わいと安らぎのあるコンパクトな都市づくりに向けた各地域振興策を推進するとともに、新町地区における街路事業及び都市再生整備計画事業の早期採択に向け、引き続き関係機関へ強く要請してまいります。

また、「栗山町景観計画」に基づき、ふるさとへの愛着と誇りを育む豊かな景観

予算総額 138億円

平成29年度 まちの予算

平成29年第1回栗山町議会定例会で、平成29年度予算が可決されました。

町ではこの予算に基づき、まちづくりに関するさまざまな事業に取り組んでいきます。

予算の詳しい内容は、広報くりやま5月号と一緒に配布予定の平成29年度予算説明書でお知らせします。

【平成29年度の予算総額】

町全体の予算総額は、138億7003万8千円で、前年度と比較し1億6637万7千円(1.2%)の増となりました。

このうち、町の一番大きな会計であり、福祉教育、産業などの幅広い事業を行う一般会計は、80億300万円で、前年度と比較し2億3700万円(3.1%)の増となりました。

【一般会計のポイント】

◆主に福祉、教育、都市基盤への事業予算が拡充となりました。

◆福祉予算では、ファミリー・サポートセン

資源の保全・活用を図ってまいります。

さらに、「栗山町公園施設長寿命化計画」に基づき、老朽化した公園施設の計画的な修繕・更新を進めるとともに、本町のランドマークである御大師山を中心とした整備計画の策定を進めてまいります。

◎今年の約束

▽新町地区の早期事業採択要請を行います。

▽継立中学校の跡地活用を図ります。

▽老朽化した公園遊具を更新します。

▽栗山公園の展望台を撤去します。

▽御大師山を中心とした整備計画を策定します。

みんなが主役のふるさとづくり

本格的な人口減少・少子高齢社会を迎え、地域の連帯意識を高め町民の総力で「くりやま創生」に取り組みとともに、効果的な行政の運営や地域特性に応じた広域連携の推進など、持

続可能な地域づくりを進めてまいります。

◆コミュニティ活動

町民の知恵と力が生きる、個性豊かで活力あふれた地域社会を実現するため、町民主体の地域づくり活動を引き続き支援してまいります。

◎今年の約束

▽まちづくり協議会などの地域活動を支援します。

▽NPOの活動を支援します。

◆行政経営

地域活性化の向上を目指し、ふるさと納税の戦略的展開と、新たな地域づくりの担い手である地域おこし協力隊とのパートナーシップによる事業を推進します。

また、不誠実な町税等の滞納者に対する厳正な対策を引き続き講じてまいります。

さらに、近隣市町や道との連携による地域振興策の展開など、広域行政を推進

してまいります。

◎今年の約束

▽ふるさと納税制度を戦略的に展開します。

▽近隣市町や道との連携事業を推進します。

◆情報共有と町民参加

広報くりやまはもとより、SNSを積極的に活用し、時流に即した情報共有を図ってまいります。

また、まちづくり懇談会やキャッチボイスの運用、出前型政策・施策説明会など、多様な世代が、町政に参加できる機会を充実してまいります。

◎今年の約束

▽出前型政策・施策説明会を行います。

以上、新年度の町政執行に臨む、私の所信の一端を述べさせていただきます。



刻々と変化する国際環境や社会経済情勢にあつて、本町はこれまで、多くの試練・困難に直面してきました。

しかしながら、積み重ねられた歴史と先人の夢をつなぎ、次世代に誇れる「ふるさと栗山」を築くため、「栗山力」、「共生力」、「町民力」の3つの力を結集し、積極果敢に挑戦する町政を推進してまいりました。

地方創生が深化する中、本町の魅力や潜在力を十分に活かし、「子どもたちが夢・希望を描くことができ

るまち」、そして、まちの将来像として掲げる「誰もが笑顔で、安心して暮らすまち」を実現することが何より重要であります。

これまで着実に成長してきた一つひとつの取組が、大きく実を結び、そして、未来に向けて力強く「飛翔」する新年度の町政運営に、全力を傾けてまいります。

終わりに、町民の皆さん、議員の皆さんの一層のご理解とご協力を心からお願ひ申し上げます。町政執行方針と

<各会計当初予算の概要>

区分	平成 29 年度	平成 28 年度	増減額	対前年比	
一般会計	80 億 300 万円	77 億 6,600 万円	2 億 3,700 万円	3.1%	
特別会計	国民健康保険特別会計	20 億 471 万円	20 億 3,345 万円	△ 2,874 万円	△ 1.4%
	北海道介護福祉学校特別会計	1 億 1,427 万円	1 億 1,293 万円	134 万円	1.2%
	介護保険特別会計	13 億 7,380 万円	13 億 8,763 万円	△ 1,383 万円	△ 1.0%
	後期高齢者医療特別会計	2 億 286 万円	1 億 8,668 万円	1,618 万円	8.7%
	住宅団地造成事業特別会計	4,000 万円	2,500 万円	1,500 万円	60.0%
	工業団地造成事業特別会計	2,008 万円	2 億 835 万円	△ 1 億 8,827 万円	△ 90.4%
事業会計	水道事業会計	8 億 2,762 万円	8 億 2,389 万円	373 万円	0.5%
	下水道事業会計	12 億 8,369 万円	11 億 5,973 万円	1 億 2,396 万円	10.7%
合計	138 億 7,003 万円	137 億 366 万円	1 億 6,637 万円	1.2%	

教育行政施行方針



今日、少子高齢化や人口減少の進行、産業構造の変化などにより、学校や子どもたちを取り巻く環境、生活様式などが大きく変化しており、子どもたちの学力や体力の向上、生活環境を改善することが重要であります。

また、人々にとってもライフスタイルの多様化が急激に進む中で、誰もが生涯を通じて主体的に学習に取り組み、潤いに満ちた実りある人生を送ることができ、生涯学習社会の実現が求められております。

本町においては、子ども一人ひとりの生きる力を育む知・徳・体の調和のとれた教育活動を推進するとともに、町民の誰もが潤いのある生活を送るための生涯学習講座や体力づくり事業などの実施を通して、地域

の学びの環境づくりに努めているところであります。

本町の教育推進においては、「栗山町第6次総合計画」及び「栗山町の教育大綱」を踏まえ、教育委員会が行うすべての活動を通して、「ふるさと教育」を実践することとし、学校教育では、確かな学力を育成するための教育環境、豊かな心や健やかな身体を育む教育活動を推進するとともに、社会教育では、町民の皆さんがふるさとである栗山を愛し、社会の一員として躍動して、豊かな生活を送ることができるよう、その充実を図ってまいります。

そのため今年度は、「自ら学び、生活に豊かさ・潤いを感じるふるさと栗山の教育」をテーマに掲げ、子どもたちが未来を切り拓く



ハサンベツ川支流「春の小川」再生事業

ための力としての主体的な意欲や態度を持ち、生涯学習のキーワードである主体性を重視し、「ふるさと栗山」での生活の中で充実感を味わい、豊かな人生を送ってほしいとの思いを込めて教育行政を執行する考えであります。

以下、具体的な推進方針に関わり、第1章では学校教育、第2章では社会教育、第3章では自然体験教育、第4章では北海道介護福祉学校の4分野に分けて、13の重点方針を申し上げます。

第1章 新しい時代を見据えた学校教育

変化の激しい社会の中で、子どもたちが社会の一員として、健康的に学び育ち、我が国が持続的に発展していくために教育の果たす役割は重要であり、子ども一人ひとりの確かな学びを支える教育を進め、豊かな人間性を育み、能力を最大限に引き出すなど、新しい時代を展望した学校教育の充実が求められております。

栗山の教育は、栗山に生まれ、栗山に学び、育つことに自信と誇りを持つ子どもたちを育てることに責任を持ち、子どもたちすべてがよく学び、よく遊び、心身ともに健やかに育つことを願いとして進められなければなりません。

教育委員会は、各学校が主体的に行う学校評価の確実な実施・分析・公表の徹底を図るとともに、コミュニティ・スクールやキャリア

教育、土曜授業を積極的に展開し、保護者や地域住民が主体的に教育に参画し、町民総ぐるみ、総がかりの教育を推進いたします。

時は折しも新しい時代を見据えた学習指導要領の改訂期を迎え、学校は指導力のある教師が、知・徳・体のバランスのとれた質の高い教育を提供し、安全と安心、期待と信頼に満ちた活気あふれる学校教育を目指します。

以下、特に重視することを4点申し上げます。

①組織体として機能する学校づくり

今年度は本町が、子どもたちの育ちを軸として、学校と地域が連携・協働するコミュニティ・スクール制度を導入し、2年目を迎えます。

学校は、校長のリーダーシップの下、全教職員がチームとしてその機能を発揮できるようマネジメント力を強化いたします。

また、「ふるさと栗山」で育ち、学ぶことに誇りと自信を持つ子どもたちを育むため、小・中学校及び栗山高等学校が連携・協力して、小中高一貫ふるさとキャリア教育を推進いたします。

さらに、子どもたちの成長の早期化や中1ギャップと呼ばれる環境の変化などに伴う不応指導、小学校への教科としての英語の導入など、小・中学校の段階を一体的に捉え、その接続を円滑にする指導方法や組織運営を工夫してまいります。



小中高ふるさとキャリア教育体験発表会

②学びを支える教師の資質向上

学校教育は、子どもの確かな学力を保証します。そのため、教育課程を構造的に捉え、授業における学習・指導方法を見直し、個に応じた学習指導やALTを積極的に活用した外国語活動、アクティブラーニングを取り入れた授業への転換など、次代を生きる子どもたちの資質や能力の育成に努めてまいります。

子どもの状況を的確に把握し、すべての子どもが分かる楽しさを感じ得るユニバーサルデザインの授業づくりを進めてまいります。

また、学校教育の成否は、教師の双肩にかかっております。学校が積極的に自らの教育活動を他に問う公開研究会や、教職員を対象とした研修会を開催するなど、校長のリーダーシップの下に、教師の「強い情熱」や「確かな専門性」、「総合的な人間力」を兼ね備えた優れた教師を育て、質の

高い教育活動を展開してまいります。

さらに、保護者や地域住民と積極的に連携・協力し、子どもたちの望ましい学習習慣や生活習慣を育んでまいります。

③ともに支え合う心を育む教育活動

子どもたちの心身の健全な成長のため、「特別な教科としての道徳」を要とした学校の教育活動全体を通じて、道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性を養います。

学校図書室や図書館司書の活用を通して、言語活動や探究学習、読書活動などの充実を図り、子どもたちの豊かな人間性の涵養を図り、「居場所づくり」を進めてまいります。

さらに、教育環境の変化は、子どもたちのコミュニケーション能力や規範意識の低下、生活習慣の乱れや学習意欲の低下、いじめや不登校などへの対応を求めています。一人ひとりに

寄り添う積極的な生徒指導や教育相談体制の充実とともに、学校、家庭、地域、関係機関が連携した取組を構築してまいります。

④健やかな身体づくり
全国体力・運動能力、運動習慣等調査などの結果、本町の子どもたちの日常生活における運動離れが課題となっており、

学校における体育科の充実や部活動への参加、体力テストの実施、少年団活動などにおける体力づくりとともに、家族揃ってスポーツに親しむ運動習慣の日常化を啓発・推進してまいります。

また、学校給食においては、地産地消、安全・安心の徹底とともに、子どもたちの健やかな身体を育む食育指導を進めてまいります。

さらに、保護者の理解を求め、「フッ化物洗口」による子どもたちの歯の健康づくりを進めてまいります。

ていく活動を展開するほか、町民の学びを学校支援から協働へと発展させ、地域学校協働本部事業として、他の地域のさまざまな関係機関や団体とのネットワークを図りながら、地域、家庭、学校に対して多様な活動を行っていくことにより相互に協力し、地域全体で学びを展開していく「子どもも大人も育ちあう教育体制」を構築します。

⑤町民主体の芸術・文化の振興

町民主体の芸術祭・音楽祭や文化連盟主体の芸術祭・菊花展などを継続するとともに、町内の芸術家への支援も継続してまいります。

また、文化財保護委員会を中心に、町内にある継承すべき貴重な文化財を保存・保護してまいります。さらに、栗山町子ども夢づくり基金や文化振興基金などを活用し、文化活動や体験交流活動、リーダー養成など、さまざまな分野で

第2章

豊かな生活を営む社会教育

時代の変化に伴い、ライフスタイルがますます多様化する中、人々が生涯を通じて自主的に学習活動を行い、暮らして豊かさを感じようとする学びの環境づくりを推進することが求められます。以下、特に重視することを5点申し上げます。



高齢者大学「いきいきスクール」 宿泊研修

①生涯に渡る学びの推進
町民の心のゆとりや有意義な生活につながるよう、楽しみや感動を与える生涯学習講座や芸術観賞事業を実施してまいります。

「いきいきスクール」につきましても、今後、学生の自主的な企画・運営が取り入れられるよう工夫しながら、引き続き学生の声を大切にして、喜びや生きがいを実感できる講座となるよう推進してまいります。

また、本町の将来を担う子どもたちに国際感覚を身に付けるための「少年ジェット希望の翼事業」や、本町と姉妹都市関係にある角田市との「子ども交歓のつどい事業」を継続して実施してまいります。

②図書館を活用した読書習慣の促進

町民ニーズの把握に努め、備品の継続的な整備を図り、「町民による身近な図書館づくり」を進めるとともに、読書推進と本を通じた親子のコミュニケーション

シヨンのきつかけづくりを基本方針とした「家読」事業を展開し、町民の読書習慣のきつかけづくりを拡大してまいります。

また、学校との連携・協働による読書活動の推進を図るため、「ミニくりプロジェクト」に加え、学校図書室を専門に担当する司書の配置により、学習活動を支援するとともに、図書室が子どもたちの「心の居場所」となる環境づくりに努めます。

さらに、学校教育を担当する職員、図書館司書による読書チームを発足し、学校、教育委員会、図書館の協働により、学校での読書活動をさらに強め、栗っ子の読書習慣を育んでまいります。

③健康づくりと生涯スポーツの振興

スポーツは、心身ともに健康で充実した生活を送るためには欠かせないものであり、青少年の健全育成や町民の健康の維持・増進な

ど、多様な効果も期待できます。そのため、誰もが気軽に参加できる歩けあるけ運動やウォークラリー、スイミングフェスティバル、ファミリースポーツフェスティバルなど、町民のスポーツやレクリエーション活動の充実を図ってまいります。

また、スポーツ施設の長寿化を図るための計画的な施設設備の補修・改修を進めるとともに、体育協会やスポーツ少年団を支援し、競技力の向上やスポーツの普及・振興を図ってまいります。

④子どもを守り育てる地域づくり

子どもたちは、栗山の将来を担う希望の存在であり、心身ともにたくましく成長するよう、地域全体で子どもを守り育てることが大切であります。

そのために、ふるさと教育交流会や、通学合宿などの取組を通して、地域全体で子どもたちの成長を支え

活躍する子どもたちへの支援を充実してまいります。

第3章

郷土を愛する人材を育む自然体験教育

私たちは、次代を担う栗っ子に期待をかけ、社会の変化に対応できる人材、人生の諸課題にたくましく挑戦する人材の育成を常に念頭におきながら、各種教育活動を展開しなければなりません。

本町では、国蝶オオムラサキの生息が確認された昭和60年以来、次代を担う子どもたちのため、熱意ある町民が協働し、栗山の豊かな自然環境を守り育ててきました。

教育委員会といたしましては、栗っ子が、「ふるさと栗山」の自然環境の下で、心豊かにたくましく成長することを願いながら、人材の育成に努めます。

以下、特に重視することを2点申し上げます。

①栗山の自然を活かした体験教育の推進

平成22年からスタートしたふるさと自然体験教育事業は、栗山の歴史や文化や産業も学ぶことができ、ハサンベツ地区、フアーブルの森、夕張川など身近な自然環境を活用した「栗山ならではの五感総動員原体験教育」として定着しております。

子どもたちが、豊かな自然環境の下で学び、ふるさとに愛着や誇りを持ち心豊かにたくましく成長することを願い、積み上げてきたふるさと自然体験教育事業の質を高め、自然環境教育を含めたふるさと教育の充実を図ります。

②自然と人が共生するまちづくりを目指す環境保全・再生

栗山の素晴らしさに気づき、栗山を愛し、栗山に住むことに誇りと自信を育むため、ふるさと自然体験教育プログラムの一層の充実を図り、学校の教育課程に

栗山を題材にした指導をこれまで以上に取入れやすくするための研究をいたします。

また、各教科用のふるさと自然体験教育プログラムについても研究を進めてまいります。

さらに、オオムラサキをはじめ、貴重な生態系を有する滝下地区の保全活動を進めるため、空知森林管理署との間に「国民参加の森林づくり協定」を締結し、各種団体の協力を得ながら生態調査を実施してまいります。

第4章

超高齢社会を担う北海道介護福祉学校

超高齢社会における少子化の影響は深刻になってきております。介護福祉学校が開校した昭和60年代と比較すると、道内の義務教育卒業生は半減しており、若者減少とは相反し、団塊世代が後期高齢者に近づきつつあり、高齢者は大



北海道介護福祉学校

幅に増加します。多くの高齢者を支える多数の介護福祉士の確保は本町のみならず、道内各市町村における緊急な大きな課題となっております。

さらに、医療的ケアをはじめ、介護ロボットの導入、情報のICT化により高度化する介護現場では、適切に対応のできる優秀な介護福祉士が必然的に求められることとなります。これからの社会において、本校の必要性が一層求められ、その社会的使命はますます高まっております。

以下、特に重視することを2点申し上げます。

平成 29 年 4 月 1 日付
北海道教育委員会発令

学校職員の異動

(敬称略)

【転入】()内は前任校

- ◆校長 豊田 智博 (猿払・知来別小)
- ◆教頭 栗山小 土谷 直樹 (長沼・西長沼小)
- ◆教諭 角田小 堀 文彦 (栗山・栗山中)
- 栗山小 伏見 昌代 (岩見沢・南小)
- 大熊 みき (三笠・三笠小)
- 山元 恵 (江別・上江別小)
- 尾久 邦彦 (栗山・栗山中※再任用)
- 伊藤 晃 (由仁・由仁小)
- 角田小 塚八 大宇 (岩見沢・光陵中)
- 栗山中 松井 大介 (岩見沢・光陵中)
- 向平 由紀 (由仁・由仁中)
- 沼辺 敬 (南幌・南幌中)
- 高橋 勝幸 (奈井江・奈井江中)
- 齊藤葉津美 (岩見沢・緑中)
- ◆養護教諭 栗山小 武藤 恵 (夕張・夕張中)



【転出】()内は新任校

- ◆校長 岡山 宏文 (三笠・三笠小)
- ◆教頭 栗山小 中島 淳 (秩父別・秩父別小※校長)
- ◆主幹教諭 角田小 斎藤 宏史 (由仁・由仁小※教諭)
- 栗山中 堀 文彦 (栗山・角田小※教頭)
- ◆教諭 栗山小 長谷 宣子 (定年退職)
- 能條 知子 (由仁・由仁小)
- 栗山中 竹居田温子 (夕張・ゆうばり小)
- 尾久 邦彦 (定年退職※栗山小再任用)
- 栗山小 奥村 弘美 (岩見沢・美流渡中)
- 高田 恭介 (深川・北新小※教頭)
- 鹿糠 昌弘 (岩見沢・美流渡中)
- 末松 真希 (月形・月形中)
- ◆栄養教諭 栗山小 小澤 明子 (再任用任期満了)



栗山小学校で 本の読み聞かせ しませんか？

年齢、性別など関係なく、どなたでも参加できます。初めての方には経験者がペアになりますので、心配ありません。

【活動時間】
週1回
午前8時15分～8時半
※毎週が無理な方でも参加は可能です。

【問い合わせ】
栗山小話会
代表 庭瀬
☎0591-720591

①超高齢社会に対応する人材の育成

少子高齢社会を乗り越えるためには、施設設備の充実はもとより、ハード・ソフトの両面における適切な整備が必要となります。特に利用者へ直接関わり、利用者の多様なニーズに応えることができる優秀な介護福祉士の育成が強く求められております。

本町では、開校当時から超高齢社会を見越して、福祉のまちづくりを進めてまいりました。これは紛れもなく将来を見据えた政策であり、町民のためのやさしいまちづくりの想いが、本校の開校を実現したものと考えております。

これからの介護福祉学校には、これまで以上に高い資質を備えた介護福祉士の育成を図り、優秀な介護福祉士を町内はもとより、広く北海道や全国へ輩出することに加え、学校機能の多様化を図り、町内の各施設で働く介護福祉士や介護職員の介護技術向上を図る中

核的な機能を果たすことのできる施設となるよう整備していかねければならないと考えます。

②介護福祉学校の現状と今後の展望

近年、全国的に介護福祉士養成校の入学者数は減少の一途をたどり、本校の入学者数も減少傾向が続いております。この傾向は、介護福祉士養成校のみならず各種専門学校や大学・短大においても学生確保が困難な状況となっております。

このような状況ではあります。道内の各施設や自治体では、本校が輩出した介護福祉士に高い評価をいただき、各地域の施設から学生を本校に進学させる流れもできつつあります。

また、各地域の施設で働く多くの卒業生からも母校である本校を高く評価いただいております。各地域から学生を進学させ、卒業後に再び各地域に介護福祉士として戻す一連の流れが構築されつつあると考えており

ます。

一方、厚生労働省も介護福祉士養成を喫緊の課題とし、介護福祉士養成のための修学資金を改めて設立しております。各自治体・各施設においても介護を指す学生の経済的支援を行う体制が整いはじめております。

さらに、職員の「介護福祉士」資格取得を目的に、2年間本校に学生として勤務させる施設も現れております。

今後とも粘り強く高校や各施設訪問を繰り返し、町立の養成校としての存在を十分に周知するとともに、卒業生の確かな社会的・経済的自立の実績から信頼を得ることにより、安定的に学生が確保できるように努力してまいります。

以上、学校教育をはじめ、4分野にわたり申し上げます。



結びに、平成29年度に向けた教育長並びに教育委員4名の決意の一端を申し述べます。

「町民の創意に基づく栗山ならではの教育」の推進を掲げる教育委員会といたしましては、町民のニーズや想いを十分に把握し、町民が必要とする情報や学習機会を提供しながら教育力の向上を図り、総合的な生涯学習社会の実現に向けた取組を強化してまいります。

私たち5名は、栗山の将来を担うやさしさとたくましさを持った人材の育成を強く願いつつ、「ふるさと栗山です。」の理念の実現に向け、着実な歩みを進めるよう努めるとともに、これまでの「行動する教育委員会」の初心に立ち戻り、栗山ならではの教育推進に努めてまいります。

町民の皆さん、議員の皆さん、並びに関係機関・団体の皆様のご指導とご協力を心からお願い申し上げます。平成29年度の教育行政執行方針いたします。